

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームやすらぎ ユニットこもれび	評価実施年月日	H19年11月21日
評価実施構成員氏名	田端 高橋 伊藤 干場 脇坂 松田 早勢 沓澤 京谷		
記録者氏名	伊藤	記録年月日	H20年12月5日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>母体病院の理念を基にGH独自で一人一人の個性を尊重した介護サービスを行えるよう高齢者の特徴を理解した理念を作っている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者・スタッフは理念を毎朝唱和し、その意味を理解し、理念に沿った支援を行えるようスタッフ一人一人が意識し取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域のみなさんに理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議にて地域・家族の方々へ理念を伝え理解していただけるよう取り組んでいる。また入居の際にも理念の説明を行い、施設内に理念を掲示し訪問時にもすぐに見られるようにしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>地域の方の協力を得て「やすらぎ夏祭り」を開催したり、地域の保育園や踊りのサークルの方の慰問などで交流を深めている。又町内会や公共の施設に新聞を回覧・掲示していただき呼びかけを行っている。畑で作業していると声を掛けていただき、収穫した作物を頂いたりしている。</p>	<p>やすらぎ新聞の配布は継続して行い、その他のPRの方法も今後見つけて呼びかけていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>近隣に民家が少ないが老人会の慰問(日本舞踊の公演等)、地域活動(文化祭・中学校の発表会・園児との交流・お祭り)等に積極的に参加し地域との交流を大切にしている。地域の催し物の情報の収集なども職員一人一人心掛けている。町内会に入会し新聞を回覧させていただいている。</p>	<p>地域の清掃活動等に参加させて頂けるようお願いしている。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>管理者は認知症キャラバンメイトの講習を受け地域へ認知症介護を広げていける体制を作り、講習の機会があれば声をかけてくれるよう伝えている。又人材育成として看護学生の実習・中学生の体験学習などの受け入れも行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>できるだけ沢山の家族に参加して頂くためにはどう呼びかけていけるかが今後の課題である。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者が意見・不満等を言える雰囲気・関係作りに努めて、入居者の言葉や態度からその思いを察する努力をし入居者本意の運営を心がけている。アンケートを実施し入居者の日頃なかなか伝えられない思いを知ることができ、ケアに活かしている。意見箱を設置し入居者の意見や不安等があった場合には速やかにスタッフ間で話し合い早期に解消できるよう努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	グループホーム新聞を発行し日々の暮らしぶりや職員の異動について報告している。月1回各家族へ健康状態・金銭管理状況等を報告している。又面会時や特変時には随時報告している。御家族の生活状況に合わせて手紙や電話のやり取りも行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には手紙や訪問時、家族会・運営推進会議等で常に問いかけ何でも話してもらえよう雰囲気等を心がけている。苦情窓口を設置し外部者にも表せるようにしており、GHの玄関にも意見箱を設置している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング・勉強会を月1回行い、意見を出せる場がもうけられている。又個人面接を実施し個人的に意見を言える場があり意見が言いやすいよう配慮されている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の暮らしを支えられるよう、行事や入居者の状況とベースに合わせたローテーションを組んでいる。必要に応じて柔軟に職員の配置を考えており、職員の急病時等にも連絡網等活用し迅速に対応できる体制が出来ている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	同一法人GH内での異動があるが、入居者と家族にお知らせし入居者へのダメージが最小限になるよう申し送りを充分に行い、対応が難しい場面では古いスタッフが対応するなどフォローしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>GH内での経年度別研修を開催し、母体病院での研修・救急救命・GH研修会等積極的に参加しミーティングにて全員にフィードバックしている。認知症介護支援専門員実践者研修への参加やスキルアップのため個人の資格取得にも協力している。又看護学生の実習を受け入れることによりスタッフの意識が高められている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>GH協議会やGH研究会主催の研修会・交流会に参加し日頃の悩みや課題を話し合い、ネットワーク作りが心がけている。同一法人内のGHスタッフが交流し情報交換を行える場を作り互いに向上できるようにしている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ストレスにならないよう問題解決に向けて相談や話し合いを行っている。休暇を取りリフレッシュしたり親睦会等の行事を行うなどしている。入居者と離れ休憩する場所・時間がきちんと確保されている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各個人が年間目標を立て達成する為の努力をしている。又管理者はスタッフの努力や成果を評価し、次の目標設定が出来るよう助言している。各個人の能力・長所を活かした各委員会や業務の割り当て等で責任を持って取り組んでいる。又資格取得に向けた支援を行っている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>出来る限り面接回数を多く取るなどし、不安や疑問点等を伺い、不安を取り除けるよう努めている。自分の意思を伝えたり表現できないかどうかを見極め、表情などから察し、不安に思っている事を出来るだけ受け止め安心して生活できるように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前よりあらゆる機会をとらえてコミュニケーションをとるようにし、家族の思いを引き出せるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談者にとってGHの生活が一番適しているのか？他のサービス利用が適しているのかを家族・PSWも含め相談し決定している。 相談があり御本人・御家族が求めていることに対応できない場合は他のサービス(フォーマル・インフォーマル)利用の助言を行っている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人に事前に説明し納得していただいた上で見学していただきホームの雰囲気やホームでの生活をイメージできるようにしている。又それまで関わっていたヘルパーやスタッフに訪問してもらうなどして早くなじめるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一方的なケアではなく共に協力し支えあいながら生活できるようスタッフが入居者に教えていただいたり助けてもらいながら、共に楽しみを共有している。 スタッフも行事に参加する事で入居者様と共に喜びを分かち合っている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族には一緒に入居者を見守り、支えていけるよう、情報交換をこまめにし、家族・入居者・スタッフが一緒に楽しんだり出来る機会を作っている。外出・外泊等も本人の希望を出来る限り聞き入れ、家族に相談するなどし協力を得て頂いており、こちらからの働きかけも日々行っている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者・家族双方の理解(生活歴を含め)関わりがスムーズに行くよう支援している。 音信不通の家族にはこちらからの働きかけをまめに行い、近況報告など伝えつつ、連絡が途絶えないよう促している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも訪問していただけるよう面会時間を設定せず、随時面会可能である。年賀状や手紙、電話のやり取りを支援している。以前住んで居た場所へドライブへ行き、近所の方との再会で疎遠にならないよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係を把握し、人間関係が円滑にいくようスタッフはさりげなく介入し孤立せず、協力し支え合っているよう支援している。対応を統一し、不平・不満が出ない様心がけている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居された方であっても状態が改善しGHに再入居できる可能性がある場合には所属先のスタッフと情報交換を行ったり面会へ出向いたりし、繋がりが途絶えないようにしている。サービス担当者会議等で担当者よりその後の情報(状態)を聞いたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者アンケートを実施したり、日々のコミュニケーションの中で思いを理解するよう努めている。共同生活の中でも各個人の希望を出来る限りかなえられるよう支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を取り入れ本人・家族・親類などから情報提供していただき、これまでの暮らしを把握できるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式(生活リズムシート)を活用し、入居者の状態の変化を見逃す事が無いよう、スタッフ間の情報交換をまめに行っている。カンファレンス終了後の議事録作成は早急に行い、入居者の情報の浸透を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員・計画作成担当者の監理のもと担当スタッフ・本人・家族の意見を反映し入居者がよりよい生活を行っていただけるよう計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間ごとの見直しを行うことはもちろんの事、状態の変化が生じた時には介護支援専門員が中心となり随時ショートカンファレンスを行い、家族と相談し現状に即したプランに変更している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに基づいた介護記録の充実に努め全てのスタッフが情報を共有できるよう温度版・申し送りノートを活用し、日々のケア・プランに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	日々変化する入居者と家族の状況に合わせて医療連携体制を活かし病院受診の負担の軽減・早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続等臨機応変に対応している。また他科受診時、家族が付き添い困難な場合はスタッフが同伴し、通院等行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	入居者の生活の向上、楽しみごとへの支援として地域の方(園児・町内会)や中学生の体験学習・ボランティアの方に訪問していただいている。運営推進会議を通して民生委員・地域の方との意見交換機会を設けている。町内・公共施設に新聞を配布し広く地域の方の理解と協力をいただけるように働きかけている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他サービスの利用については本人・家族からの希望があれば情報収集を行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター主催の勉強会や研修会には必ず参加し、情報の共有に努めている。又センターへ新聞を配布しGHの理解をしていただけるよう努めている。職員の方に訪問していただき様々な情報やプランについての助言等を頂いている。やすらぎ夏祭りではセンターからの出し物(認知症を題材にした演劇)も披露して頂き、参加して頂くことで様々な情報の共有ができています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	GHに常勤している2名の看護師は入居者のことをよく理解しており、不安な事がある場合や緊急時はすぐに相談する事ができ、協力しあいながら健康管理を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	母体病院には認知症専門医がおり医療的な側面からの支援をしてくれている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所内には2名の看護師が勤務しており24時間連絡が取れる体制が整っており、入居者の健康管理の支援を行っている。外来看護師とGH看護師の情報交換は万全に行えている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者が早期に退院できるよう情報交換を行い入居者の状態変化にも柔軟に対応し、いつでも受け入れられるような体制をとっている。又スタッフが入院先に面会に行き疎遠にならないようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の看取りの指針を示しており、健康なうちから終末期のあり方について家族の意志を確認している。スタッフは勉強会などに参加しいつでも対応できるようにしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事例はないが、入居者の高齢化に伴い重度化に向けての準備を進めている。医療に関しては「できること・できないこと」の説明を家族に行い判断・同意を得ている。ターミナルケアについての研修への参加。		死に対する考え方、受け止め方を含めたスタッフ教育の充実に努めたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>自宅に戻られた方はいないが、転所時(入院・老健)には受け入れ先への情報交換を充分に行い、入居者が環境変化の中でも安心して生活・療養できるように努めている。</p> <p>介護支援専門員の紹介やPSW・相談員等への情報の提供(交換)。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人一人の人格を尊重しプライバシーに配慮した声掛けや記録を行っている。指示命令的な声掛け・行動制限をしない等身体拘束廃止委員会を中心に共通意識を持ってケアしている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日頃表出できない思いを日々のコミュニケーションの中から見極めるよう努力している。入居者にアンケートを実施し希望に添えるよう意志尊重に努めている。本人のできる能力を見極めできる限り自分で決定できるよう支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者アンケートを実施、それを反映し、介護する側のペースではなく入居者1人1人に合った1日の流れで過ごせるよう心がけている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望の美容室や理容室を利用し髪型・パーマ・毛染めなど好みでおこなっている。朝の着替えは本人に選んで頂き、季節に応じ衣類等の購入の支援も行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>料理や盛り付け、配膳準備、食器洗い、米研ぎ等入居者の出来る事を見極め、判断しながら負担にならない様に行って頂いている。</p> <p>食事は一緒に頂き楽しく食事ができるように配慮している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人一人の希望に合わせ、好きな果物や飲み物・おやつが食べられるよう希望があれば買い物や外食の支援をしている。自動販売機・入居者用の冷蔵庫を設置しており好きな時に好きなものを食べる事が出来るようにしている。 行事等でお酒を楽しまれている方もいる。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し失禁やおムツの使用を減らせるよう時間でのトイレ誘導や行動(兆候)を観察するなど支援している。また昼夜でリハビリパンツ・パット・布パンツ等を使い分けている。汚染時には羞恥心に配慮し清拭・更衣を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者アンケートを基に入浴時間を設定しゆっくりと入浴できるような声掛けをし気の合う方と一緒に入ったりしている。入浴剤の使用や、みかん風呂にするなど入浴を楽しめるような工夫をしている。拒否のある場合には無理強いせず本人の気持ちを優先するようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の睡眠状態・パターンを把握し、夜間寝付けない時などには温かい飲み物を提供し、安心できるよう傾聴したり、そばに寄り添い不安を解消して頂くための支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の生活歴を把握し、それぞれに合った役割や楽しみごとを見つけている。 新聞とりやピーズアート、配膳準備、食器洗い、洗濯物たたみ、物干し、雪はね等「本人が生きる事への支援」ができるよう配慮している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の能力と希望に応じて家族の了解のもと小額のお金を所持されている方がおり、コーヒーやジュースの購入を自ら行っている。お小遣いを貯金し、欲しい衣類の購入で貯めることの喜びも感じて頂いている。事務所に預かっている方でも外出時の支払いなどは自分で支払って頂けるように工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホーム内に閉じこもることのないよう、戸外へ出る機会を作り、散歩や買い物の希望があれば可能な限り一緒に出かけている。全体での外出支援はもちろんのこと、個々の希望に合わせて食事や温泉、喫茶店などに出かけている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者の希望を聞きながら個別・グループで外出しており体調に合わせて家族と共に外出もされている。墓参りや法事にも家族と共に外出されている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者より電話の希望があればいつでも使用可能である。暑中見舞いや年賀状、手紙の送付も行っている。本人がうまく伝えられない場合などはスタッフが介入している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は定めておらず、仕事帰りや御家族の都合のいい時間帯にいつでも来ていただけるよう配慮している。訪問時笑顔で対応しゆっくりと面会していただけるような雰囲気作りを行っている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束によって入居者がうける身体的・精神的弊害について学び、身体拘束のないケアの実践をしている。身体拘束廃止委員会を組織し、ケアの振り返りや点検が出来るようにしている。拘束についてのアンケートを実施し、個々の意識を確認し合っている。定期的にマニュアルの見直しも行っている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者が出て行こうとされた時には、止めるのではなく行動を共にする事を大切にしている。一人一人の状態をきめ細かく観察し、危険を察知できるようにしている。ドアには開け閉めするたびに、優しい音色の鈴が鳴るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフは入居者の安全を常に意識し、行動をさりげなく見守りつつ全員の状況把握に努めている。日中・夜間共に毎時間巡廻を行ない24時間入居者の安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の能力・その時々状態に合わせて自己管理できるものは行っているが、危険物と判断した物に関しては、同意の上詰所預かり又は家族に持ち帰って頂いている。危険物の管理・確認は1日2回行っており使用するときには安全面に留意し状態に応じて見守りを行っている。入居者がいつでも利用できるよう洗剤等は扉のある棚に保管している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時マニュアルがありいつでも見る事ができるようになっている。事故防止対策委員会を組織しておりヒヤリハット・インシデントアクシデントレポートを報告SHELL分析等から事故防止策を具体的に検討している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを整備し周知徹底を図ると共に、消防署が行う救命講習会に積極的に参加し技術の習得を図っている。運営推進会議では御家族・町内の方にも一緒に消防の方による救命救急の講義・講習に参加されている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時マニュアルを作成し全てのスタッフが対応できるよう定期的に消火訓練を行い、自衛消防訓練にも積極的に参加している。避難訓練も定期的に行っており、隣にある母体病院・施設との協力体制は万全に整っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者一人一人に起こりうるリスクを把握し、家族にはその都度対応策を含めて説明している。安全・安心して生活できるような対応策を話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>安心・安全な食材が1食分ずつ届いている。台所や調理器具等の消毒や衛生方法については取り決めがあり、まな板や布巾等は毎晩漂白・消毒を行っている。調理時はエプロン・使い捨て手袋の着用をしている。冷蔵庫の清掃・消毒も定期的に行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>花の季節にはプランターを置き、明るく、くつろげる空間・雰囲気作りをしている。又、玄関先にベンチを置き一休みできるスペースを作り、冬にはアイスキャンドルを作り、みんなの目を楽しませている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者が快適な生活が送ることができるよう、時間や活動に応じて音や光を調節している。事務所や台所のカウンターには季節ごとに花や飾りを置き、廊下には行事の写真の掲示等で季節感に配慮している。茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地よい音楽等五感を刺激する音を大切にしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気の合った入居者と話をしたり一人でのんびり自由に過ごせる居場所をそれぞれ持っている。共有のホールには花やお茶の設置で自宅に居る様な雰囲気を大事にしている。食堂のテーブルは人間関係を考慮した配置にしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室の壁には好きな絵や写真、手作りのカレンダーなどを貼ってあり、ぬいぐるみ・植物など好みの物をおいてある。入居後年数が経っている方や入居間もない方も共に過ごしやすい空間になっている。使い慣れた鏡台や仏壇、食器棚やラジカセを持ち込まれ、居室内で自ら購入された鉢植えの植物を飾り、水やりなど行い育てている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>スタッフが臭いに敏感になることで常に意識しよどみのあるときは換気を行っている。トイレには芳香剤や消臭剤を置くなど不快な思いをしないよう配慮している。温度調節は入居者の状態や季節に合わせてこまめに行っている。湿度にも注意し、洗濯物を小上がりに干すなどし湿度を保っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>安全に自立した生活ができるよう建物はバリアフリーで手すりが設置されており広いスペースで移動できるようになっている。家具やベッドは入居者一人一人に合わせて配置や高さ等を工夫している。台所の流しには身長の高い人でも洗い物等ができるように踏み台を用意している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を常に考え、状況に合わせて環境整備に努めている。混乱や失敗が生じた場合はなげなくフォローし、その都度職員間で話し合いを行い力を取り戻せるようにしている。自力で入浴ができる方には見守りにて入浴して頂き、出来ない事だけ支援するようにしている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>テラスや玄関周りにはプランターや鉢植えなどを置き、ベンチに座って読書をしたりお茶を楽しんだりして頂いている。</p> <p>テラスにはテーブルセットを設置し芋煮会や花火鑑賞などゆっくりとくつろげる空間となっている。天気の良い日には洗濯物を干したり、朝のラジオ体操も行っている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある</p> <p>数日に1回程度ある</p> <p>たまにある</p> <p>ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族</p> <p>家族の2/3くらい</p> <p>家族の1/3くらい</p> <p>ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように</p> <p>数日に1回程度</p> <p>たまに</p> <p>ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている  <del>少しずつ増えている</del>            あまり増えていない            全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><del>ほぼ全ての職員が</del>            職員の2/3くらいが            職員の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><del>ほぼ全ての利用者が</del>            利用者の2/3くらいが            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><del>ほぼ全ての家族等が</del>            家族等の2/3くらいが            家族等の1/3くらいが            ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

母体が病院なので健康面において安心して生活できる。  
 ホーム内は空間が広くゆったりと過ごせ、音楽療法・筋力低下予防に体操を取り入れるなど様々な取り組みを行っている。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム やすらぎ ユニットやすらぎ	評価実施年月日	平成19年11月26日
評価実施構成員氏名	田端 大橋 堂本 井上 櫻庭 笹森 川原 大仙		
記録者氏名	大橋	記録年月日	平成20年12月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	母体病院の理念を基にGH独自で一人一人の個性を尊重した介護サービスを行えるよう高齢者の特徴を理解した理念を作っている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者・スタッフは理念を毎朝唱和し常に携帯していると共に、家族や来訪者にも解るように玄関に掲示している。採用時や経年度別研修等でも再確認し、日々のケアを行っている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議にて地域・家族の方々へ理念を伝え理解していただけるよう取り組んでいる。		2ヶ月に1回の運営推進会議の中で理念についての理解を深めて頂けるよう働きかけをしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の方々との交流を持つため、地域の方の協力を得て「やすらぎ夏祭り」を開催しGHの理解を深めていただくため、気軽に立ち寄りいただけるような機会を作っている。又町内や公共の施設に新聞を回覧・掲示していただき呼びかけを行っている。畑で作業していると声を掛けていただき、収穫した作物を頂いたりしている。		やすらぎ新聞を回覧し呼びかけているが今後も継続して働きかけていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近隣に民家が少ないが老人会、地域活動(文化祭・中学校の発表会・園児との交流・お祭り)等に積極的に参加し交流できるように努めている。町内会に入会し新聞を回覧させていただいたり、町内会の行事や廃品回収等にも参加している。町内会の有志の方々による日本舞踊の公演や、夏祭りのお手伝いなど定期的な交流をもっている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	管理者は認知症キャラバンメイトの講習を受け地域へ認知症介護を広げていける体制を作り、講習の機会があれば声をかけてくれるよう伝えている。又、人材育成として看護学生の実習・中学生の体験学習などの受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>すべてのスタッフは外部評価の意義を理解しており理想に近づけるよう日々取り組んでいる。外部評価の結果に基づき、改善しなければならない部分を管理者・スタッフが話し合い取り組んでいる。自己評価を行うことで自分達の介護をあらためて振り返る事が出来たり、今後の具体策もみえてきている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>GHの理念・入居者へのサービス、取り組みを報告し、地域の方の意見や家族の思いを聞くことができた。行事と組み合わせる事で参加する方々も増えてきている。</p>		<p>今後は会議の内容のマンネリ化を防ぐ為、様々な職種の方々に参加し、お話ししていただける機会を作っていく。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>外部評価の結果を市町村に送付し公開している。市町村の実施する説明会や研修会には必ず参加している。不明な点があれば質問の電話をするなどし、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>経年度別教育の中で地域権利擁護事業や成年後見制度についての学習を定期的に行なっている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止関連法について学び、身体拘束廃止委員会を立ち上げ全スタッフが共通意識を持って身体拘束・虐待のないケアをおこなっている。定期的なマニュアルの見直しを行い、内容を深めていっている。スタッフミーティングにて委員会の内容をフィードバックし、情報の共有を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に重要事項説明書や利用契約書に沿って十分な説明をおこなっている。事業所のケアに関する考え方や取り組み等も家族会開催時やケアプラン交付時等様々な機会をとらえて行き不安の解消に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者が意見・不満等を言える雰囲気・関係作りに努めて、入居者の言葉や態度からその思いを察する努力をし入居者本意の運営を心がけている。アンケートを実施し入居者の日頃なかなか伝えられない思いを知ることができ、ケアに活かしている。入居者の意見や不満等があった場合には速やかにスタッフ間で話し合い早期に解消できるよう努めている。また、玄関には意見箱を設置、苦情申し立て窓口の案内を見やすいところに掲示している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	グループホーム新聞を発行し日々の暮らしぶりや職員の異動について報告している。月1回各家族へ健康状態・金銭管理状況等を報告している。又面会時や特変時には家族と直接話すなどし、報告している。御家族の生活状況に合わせて手紙やメールのやり取りも行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には手紙や訪問時、家族会・運営推進会議等で常に問いかけ何でも話してもらえそうな雰囲気を心がけている。苦情窓口を設置し外部者にも表せるようにしており、GHの玄関にも意見箱を設置している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング・勉強会を月1回行い、意見を出せる場がもうけられている。又個人面接を実施し個人的に意見を言える場があり意見が言いやすいよう配慮されている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の暮らしを支えられるよう、行事や入居者の状況とベースに合わせたローテーションを組んでいる。必要に応じて柔軟に職員の配置を考えており、職員の急病時等にも対応できる体制ができ、連絡網も活用できている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	同一法人GH内での異動があるが一度にたくさんのスタッフが異動する事がないようにしている。異動があれば、入居者と家族にお知らせし入居者へのダメージが最小限になるよう申し送りを充分に行い、対応が難しい場面では古いスタッフが対応するなどフォローしている。		
5. 人材の育成と支援			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で定期的に行う勉強会の他に、認知症介護実践者研修への参加やGH独自の経年度別研修を開催し、救急救命・GH研修会等積極的に参加しミーティングにて全員にフィードバックしている。 又スキルアップのため個人の資格取得にも協力している。又、看護学生の実習を受け入れることによりスタッフの意識が高められている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	GH協議会やGH研究会主催の研修会・交流会に積極的に参加したり、地域包括支援センターの研修会に参加するなど日頃の悩みや課題を話し合い、ネットワーク作りに心がけている。 同一法人内のGHスタッフが交流し情報交換を行える場を作り、サービスの質の向上ができるよう情報交換などを行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ストレスにならないよう問題解決に向けて相談や話し合いを行っている。 個人個人の生活に合わせて勤務の希望を取ることにより、個々にリフレッシュをしたり、法人内の親睦会等旅行や行事に参加するなどしている。 入居者と離れ休憩する場所・時間がきちんと確保されている。		
22	向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	各個人が年間目標を立て達成する為の努力をしている。又管理者はスタッフの努力や成果を評価し、次の目標設定が出来るようスーパーバイズしている。 各個人の能力・長所を活かした業務の割り当て、資格取得に向けた支援を行っている。 スタッフ個人個人の能力に合わせて各委員会の担当や日常業務を行っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	自分の意思を伝えたり表現できないかどうかを見極め、表情などから察し、不安に思っている事を出来るだけ受け止め安心して生活できるように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前よりあらゆる機会をとらえてコミュニケーションを図るようにし、家族の思いを引き出し、ケアプランに反映できるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談者にとってGHの生活が一番適しているのか？他のサービス利用が適しているのかを家族・PSWも含め相談し決定している。 相談があり御本人・御家族が求めていることに対応できない場合は他のサービス(フォーマル・インフォーマル)利用の助言を行っている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人に事前に説明し納得していただいた上で見学していただきホームの雰囲気やホームでの生活をイメージできるようにしている。又それまで関わっていた介護支援専門員やヘルパーやスタッフの方などに訪問してもらうなどして少しでも早くなじめるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一方的なケアではなく共に協力し支えあいながら生活できるようスタッフが入居者に教えていただいたり助けてもらいながら、共に楽しみを共有している。本人の出来る部分を助長し、生活の中で発揮できる場面作りを行っている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族には一緒に入居者を見守り、支えていけるよう、情報交換をこまめにし、家族・入居者・スタッフが一緒に楽しめる機会を作っている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者・家族双方の理解(生活歴を含め)関わりがスムーズに行くよう支援している。又疎遠にならないようスタッフが家族とのパイプ役になるなどし、支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	なじみの方に訪問していただけるよう面会時の雰囲気作りや年賀状や手紙のやり取りなどで近況報告することにより、交流を続けている。又面会時間を設定せずいつでも気軽にきていただけるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の間関係を把握し、関係が円滑にいくようスタッフはさりげなく介入し孤立せず、協力し支え合っているよう支援している。また、全ての入居者が主役になれるような場面作りを行うようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居し自宅に帰られた方にもGH新聞や行事の案内を送付し、参加していただけるよう声を掛けたり、症状悪化により退居された方々にとっては、状態が改善しGHに再入居できる可能性がある場合には所属先のスタッフと密に情報交換を行い、面会へ出向いたりしている。当GHが満床の場合であっても他のGHを紹介するなどしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者アンケートを実施したり、日々のコミュニケーションの中で思いを理解するよう入居者本位のサービスを提供するよう努めている。共同生活の中でも各個人の希望を出来る限り叶えられるよう個々に支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を取り入れ本人・家族・親類などから情報の聞き取りを行い、これまでの暮らしや状況を把握できるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式(生活リズムシート)を活用し一人一人の1日のリズムを把握し状態の変化があった場合にはスタッフ間で情報交換し全スタッフが把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員・計画作成者の監理のもと担当スタッフ・本人・家族の意見を反映し入居者がよりよい生活を行っていただけるよう利用者本位の計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間ごとの見直しを行うことはもちろんの事、状態の変化が生じた時にはケアマネジャーが中心となり随時ショートカンファレンスを行い、家族と相談し現状に即したプランに変更している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに基づいた介護記録の充実に努め全てのスタッフが情報を共有できるよう温度版・申し送りノートを活用し、日々のケアプランに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	日々変化する入居者と家族の状況に合わせて医療連携体制を活かし病院受診の負担の軽減・早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続等臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	入居者の生活の向上、楽しみごとへの支援として地域の方(園児・町内会)や看護学生の実習・中学生の体験学習・ボランティアの方に訪問していただいている。運営推進会議を通して民生委員・地域の方との意見交換機会を設けている。町内・公共施設に新聞を配布し広く地域の方の理解と協力をいただけるように働きかけている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他サービスの利用については本人・家族からの希望があれば情報収集を行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター主催の勉強会や研修会には必ず参加し、情報の共有に努めている。又センターへ新聞を配布しGHの理解をしていただけるよう努めている。また、定期的に職員の方に訪問していただき、様々な情報やプランについての助言等を頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	GHに常勤している2名の看護師は入居者のことをよく理解しており、不安な事は気軽に相談することができ、協力しあって健康管理を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	母体病院には認知症専門医がおり医療的な側面からの支援をしてくれている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所内には2名の看護師が勤務しており24時間連絡が取れる体制が整っており、入居者の健康管理の支援を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者が早期に退院できるよう情報交換を行い入居者の状態変化にも柔軟に対応し、いつでも受け入れられるような体制をとっている。又スタッフが入院先に面会に行き疎遠にならないようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の看取りの指針を示しており、健康なうちから終末期のあり方について家族の意志を確認している。スタッフは勉強会などに参加しいつでも対応できるようにしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事例はないが、入居者の高齢化に伴い重度化に向けての準備を進めている。医療に関しては「できること・できないこと」の説明を家族に行い判断・同意を得ている。		重度化に向けての準備として、死に対する考え方、受け止め方を含めた、スタッフ教育の充実に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>自宅に戻られた方に対しては、退居前に家族や担当の介護支援専門員を含め、十分な情報交換を行い、入居者が環境変化の中でも安心して生活・療養できるように努めている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人一人の人格・尊厳を尊重しプライバシーに配慮した声掛けや記録を行っている。指示命令的な声掛け・行動制限をしない等身体拘束廃止委員会を中心に共通意識を持ってケアしている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日頃表出できない思いを日々のコミュニケーションの中から見極めるよう努力している。入居者にアンケートを実施し希望に添えるように努めている。本人のできる能力を見極めできる限り自ら選択し、自己決定できるよう支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ここでの生活に不満はないか、生活のしずらい所はないか等のアンケートを実施した。起床時間・就寝時間・理美容室についても一人一人の希望に添い、柔軟に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>一人一人が行きたい美容室や理容室を使っている。朝の着替えは本人の意向で決めている。汚れた時はさりげなく交換してもらえるよう声掛けを行っている。行事や外出時のおしゃれの支援や季節にあった身だしなみの支援も行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者の出来る事を見極め、大根おろしや野菜の皮むき、配膳準備、食器洗い、米研ぎ等あらゆる場面で一緒に行えるよう支援している。個々の志向に合わせ、調理方法やメニューを工夫している。職員と入居者が同じテーブルで食事をする事により、会話が弾んでいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人一人の好みに合わせて、お菓子や果物を買ってきて食べるなど支援している。行事等では希望者にアルコールの提供も行っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の羞恥心や自尊心を傷つける事無く速やかに対処している。失禁等が見られた場合でも周囲に気づかれないように本人にそっと耳打ちして別の場所で交換するなどしている。生活リズムパターンシートを活用し、排泄の状況・オムツ使用の状況等細かく集約し、ケアカンファレンスにて検討し、支援する事が出来ている。排泄パターンシートを活用し、本人のパターンを把握する事により失禁等を減らすよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴剤や季節によりみかん風呂にしたりと入浴を楽しめるようにしている。拒否のある場合には無理強いせずに本人の気持ちを優先するようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	他者との交流・外出・入浴・その日の出来事等、個別の疲れ具合に合わせて休息をとるよう支援している。夜間寝付けない時などには、話し相手になったり・ホットミルクを提供したり・足浴を行うなどしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の生活歴を把握し、それぞれに合った役割や楽しみごとを見つけている。配膳準備、食器洗い、米とぎ、洗濯物たたみ、物干し等「本人が生きる事への支援」ができるよう配慮している。季節毎に、畑いじりや花壇の手入れ、除雪等本人の出来ることを一緒に行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の了解を得て小額のお金を持っている方は数名いる。事務所に預かっている方でも外出時の支払いなどは自分で支払って頂けるように工夫し、預かり金台帳で管理して領収書を保管している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物の希望があれば可能な限り一緒に出かけている。全体での外出支援はもちろんのこと、個別に希望を聞き出して外食や温泉や喫茶店などに出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	地域の花火大会を見学した。また、体調に合わせて家族と共に外出できるよう支援を行っている。 (家族との関係を調整し初めて家族の家に外出することが出来た入居者様がいる)		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望があれば気兼ねなくかけてもらっている。また、年賀状や暑中見舞い等を出すなど外部との交流を支援している。本人がうまく伝えられない場合などはスタッフが介入している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は定めておらず、仕事帰りや御家族の都合のいい時間帯にいつでも来ていただけるよう配慮している。「また来よう」と思えるよう、スタッフは常に笑顔で対応できるよう心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束によって入居者がうける身体的・精神的弊害について学び、身体拘束のないケアの実践をしている。身体拘束廃止委員会を組織し、ケアの振り返りや点検が出来るようにしている。定期的にマニュアルの見直しも行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者が玄関やテラスから出て行こうとされた時には、止めるのではなくスタッフが行動を共にし、見守る事を大切にしている。一人一人の状態をきめ細かく観察し、危険を察知できるようにしている。玄関のドアには開け閉めするたびに、優しい音色の鈴が鳴るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフは入居者の方々の行動をさりげなく見守りつつ全員の状況把握に努めている。夜間日中共に、1時間毎に定期的に巡回を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全て、スタッフが管理するのではなく個々のレベルに応じて自己管理できるものは行っている。施設内の危険物の管理・確認は1日2回行い、漂白剤等は入居者の目に付かないところで管理している。入居時や定期的に私物の確認を行い、危険な物は家族に持って帰ってもらっている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを整備し、一人一人が学習している。ヒヤリハット・インシデントアクシデントレポートを報告SHELL分析等から事故防止策を具体的に検討している。事故防止対策委員会を組織している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを整備し周知徹底を図ると共に、スタッフは消防署が行う救命講習会に参加し、技術を習得できるようにしている。運営推進会議では御家族・町内の方々も一緒に、地域の消防署の方による救命救急の講義・講習に参加している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は定期的に行っている。近隣との協力体制は出来ていないが母体病院との協力体制は万全である。自衛消防訓練にも積極的に参加し、全職員が定期的に消火訓練を行っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者一人一人に起こりうるリスクを把握し、家族にはその都度対応策を含めて説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	看護師・スタッフの視診、定期バイタル測定を行い早期発見を図っている。スタッフが側に寄り添う事により変化を早期発見し、看護師に報告し、病院受診につなげている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルを作成しており、職員がいつでも内容を確認できるようになっている。処方変更時には家族にも報告している。副作用についても日頃から観察し、薬に対しての勉強も看護師を中心に行っている。誤薬がないよう、複数の職員がチェックする体制をとっている。投薬ケースも透明の見やすいものにし、朝・昼・夕・就寝時と色違いのラインを入れて見やすくし、管理している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	起床時の氷水、乳酸菌飲料の提供を個々に合わせて行っている。安易に薬に頼るのではなく、適度な運動や腹部マッサージを行い排便を促している。温度版にて毎日排便の確認・管理を行っている。看護師の指示の元、下剤の調整も行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	機械的洗浄に加え、科学的洗浄も取り入れて行っている。毎食後には口腔ケアの声掛けを行い、不十分な方には見守りや一部介助を行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	母体の病院の管理栄養士によるメニューの作成、食事の摂取量・飲水量の観察、栄養状態に応じた補助食品の提供等、個々に合わせた支援をしている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	系列のグループホーム間で感染防止対策委員会を立ち上げて、月に1回会議を行い感染予防に努めマニュアルの作成や万が一の為に感染症発生時の対策・準備等を行っている。外部の勉強会にも積極的に参加している。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	安心・安全な食材が1食分ずつ届く。台所や調理器具等の消毒や衛生方法については感染防止対策委員会の取り決めがあり、まな板や布巾等は毎晩漂白・消毒・高温での殺菌乾燥を行っている。冷蔵庫の清掃・消毒も定期的に行っている。調理時には専用のエプロンや使い捨ての手袋している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>花の季節にはプランターを置き、明るい雰囲気を作り出している。又、玄関先にベンチを置き一休みできるスペースを作っている。冬にはアイスクャンドルを作り、みんなの目を楽しませている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>事務所や台所のカウンターには季節ごとに花や飾りを置いたり、壁面の装飾等を工夫し、季節感に配慮している。茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地よい音楽等五感を刺激する音を大切にしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>食堂のテーブルは人間関係を考慮した配置にしている。所々にベンチを配置し、一人になれるスペースを作っている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>居室の壁には好きな絵や写真、手作りのカレンダーなどを貼っている。使い慣れた鏡台や仏壇、食器棚やラジカセ、マッサージチェアなどを持ち込まれている。居室内に植物を飾り、自らお世話をしている方もいる。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>換気をこまめに行い、スタッフが臭いに敏感になることで常に意識し気をつけている。温度調節は入居者の状態や季節に合わせて行っている。湿度に合わせて、小上がりにタオルなどの洗濯物を干している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>家具やベットは入居者一人一人に合わせて配置や高さ等を工夫している。台所の流しには身長の高い人でも洗い物等が出来るように踏み台を用意している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を常に考え、状況に合わせて環境整備に努めている。 混乱や失敗が生じた場合はその都度職員間で話し合いを行い力を取り戻せるようにしている。自力で入浴が出来る方には見守りにて入浴していただくなど支援している。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>テラスや玄関周りにはプランターや鉢植えなどを置き、ベンチに座って読書をしたりお茶を楽しんだりして頂いている。 芋煮会や焼肉をしたり、ゆっくりとくつろげる空間となっている。 天気の良い日には洗濯物を干したり、朝のラジオ体操も行っている。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <p>毎日ある            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <p>ほぼ全ての家族            家族の2/3くらい            家族の1/3くらい            ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <p>ほぼ毎日のように            数日に1回程度            たまに            ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている  <u>少しずつ増えている</u>  あまり増えていない  全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><u>ほぼ全ての職員が</u>  職員の2/3くらいが  職員の1/3くらいが  ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><u>ほぼ全ての利用者が</u>  利用者の2/3くらいが  利用者の1/3くらいが  ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><u>ほぼ全ての家族等が</u>  家族等の2/3くらいが  家族等の1/3くらいが  ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
- ・音楽療法士の先生に来て頂き月に2回音楽療法を行っている。
  - ・ホールや居室が広く明るい作りで喜ばれている。
  - ・母体が医療機関であるので体調不良時には24時間体制で治療を受ける事ができる。
  - ・各自が目標を決め達成度を面談等により評価している。